



Initiatives of Change

一人ひとりのチェンジで信頼を築く

IC ニュース NEWS

Vol.29

公益社団法人 国際IC日本協会

発行年月日 2021年4月1日

発行所 公益社団法人 国際IC日本協会

〒160-0004 東京都新宿区四谷4-28-20

パレ・エテルネル206号

TEL:03-6273-1428 FAX 03-6273-1429

E-Mail: info@iofc.jp HP: http://iofc.jp

<International lofc> HP: www.iofc.org

頒価 1部 200円

永遠の青年・渋沢栄一 会長 矢野 弘典

NHKの大河ドラマで、渋沢栄一(1840~1931、以下「翁」と略す)の一代記「青天を衝け」が始まりました。皆さまはご覧になっていませんか。私はテレビには縁のない生活を普段はしていますが、こればかりは楽しみにしています。

翁は、日本資本主義の父と称えられ、経済人はもちろん今もなお多くの人々に敬愛されています。それは、500に余る会社・団体を設立しただけではなく、倫理観のある経済・社会を築こうと努めたからだと思えます。道徳・経済合一論を名著『論語と算盤』で唱え、空理空論を廃して実践につとめ、成果を私物化せず、国際平和のためにも終生尽力したのです。教育にも熱心でした

翁の倫理観は、幼少時に受けた教育が基礎にあり、様々な経験を積む中で培われたものです。黒船来航以来の変動の中で眼が開かれ、維新の直前には幕府の使節団の一員としてフランス万博を訪れ欧州事情をつぶさに見聞し、帰国後は周知の通り数々の大事業を成しとげました。その中で翁の確信となったのが、『論語』の教えです。翁は大正14年に『論語講義』という書物を著しました。読みやすく、翁の造詣の深さとともに、息づかいまでが感じられるほどです。

翁はまた、数々の名言を遺しました。

- ・富をなす根源は何かと言えば、仁義道徳、正しい道理の富でなければ、その富は完全に永続することができぬ。
- ・働くということが人生における第一の楽しみである。不老不死の薬も、働くに勝る薬はあらずとぞ思う。
- ・四十・五十は洩垂れ小僧、六十・七十は働き盛り、九十になって迎えが来たら、百まで待てと追い返せ。
- ・《夢七訓》夢なき者は理想なし。理想なき者は信念なし。信念なき者は計画なし。計画なき者は実行なし。実行なき者は成果なし。成果なき者は幸福なし。故に幸福を求むる者は夢なかるべからず。

人生これからと考える人には、年齢の別なく励みになる言葉です。翁の事跡は真似できませんが、志と覇気は学びたいと思います。



余談になりますが、S.ウルマンという人に「青春とは」という詩があります。その一節を引用してみます。

- ・青春とは 真の青春とは 若き肉体のなかにあるのではなく若き精神のなかにこそある・・・大いなる愛のために発揮される 勇気と冒険心のなかにこそ 青春はある 臆病な二十歳がいる 既にして老人 勇気ある六十歳がいる 青春のまっただなか 歳を重ねただけで人は老いない 夢を失ったときはじめて老いる・・・

偉大な人々からのメッセージ 崇高な大自然からのメッセージ 世界がどんなに美しく驚きにみちているか

生きることがどんなに素晴らしいか 勇気と希望ほほえみを忘れず 命のメッセージを受信しつづけるかぎり あなたはいつまでも青年 (新井満『自由訳 青春とは』より)

ここで、改めてご紹介します。ご存知の方も多いと思いますが、翁の曾孫である渋沢雅英氏です。今年96歳、MRA活動の先達として世界の尊敬を集め、ラジモハーン・ガンジー(インド独立の父マハトマの孫)はじめ各国の指導者とも親交を続け、MRAハウスや今はなくなった小田原MRAセンターの設立運営に携わり、IC(元MRA)協会も永年ご支援を頂いてきました。

私たちがいつまでも若々しく、元気に過ごしたいと思えます。

新型コロナウイルス(Covid-19)の影響から、今年度は初めてのオンライン形式 (Zoom 利用) によって3月14日(日)10:30より第10回定時総会が東京都新宿区四谷の協会事務所で開催された。正会員数123名のところ、議決権行使書による参加者60名、総会オンライン出席者19名、総参加者数79名で、総会は有効に成立した。協会事務所には、理事6名と事務局2名が集まり、全員のマスク着用、会場入り口のアルコール消毒剤の設置、会議テーブルは、アクリル板で仕切り、入口を開放して換気に努めた。第10回定時会員総会は、10:30の開会宣言、静かな時間を経て、会長挨拶があったのち、矢野会長の議長就任となった。次に議事録署名人指名があり、石川理事、大隈理事の2名が指名された。

10:45より決議事項に入り、第1号議案は議長の指名により専務理事から第9期(令和2年1月1日~令和2年12月31日)事業報告並びに貸借対照表などの説明ののち、監事からの監査報告が行われた。続いて参加された会員からの質問と担当理事から応答があったのち、第1号議案「第9期事業報告書の報告並びに貸借対照表、正味財産増減計算書、附属明細書、及び財産目録等承認の件」は原案通り承認された。

続いて、報告事項として「第10期(令和3年1月1日~令和3年12月31日)事業計画書、正味財産増減計算予算書の報告」について専務理事から説明が行われた。

会員の方々の質問は、令和2年度の実業報告について、「この1年間の会員数の推移」及び、「個人正会員、賛助企業会員が減っている背景と対応」などであった。また、令和3年度の実業計画について、

学校訪問プログラムの一環として取り組んでいる「18年誌の配布方法」や「政府からの補助金の主旨」などであったが、それぞれ各担当理事から説明が行われた。最後に、静かな時間をもって総会は終了した。



<あしがき>

・第10期事業計画書(令和3年1月1日~令和3年12月31日)の実業内容及び正味財産増減計算予算書は昨年末に内閣府へ提出した内容ですが、理事会並びに各事業に関わっていただいている会員の皆様からの意見を反映したものです。国際フォーラム事業については、昨年同様にオンライン形式で行う予定で、準備会がスタートしました。学校訪問プログラム事業は、受入側の事情や海外からの渡航が難しいことから、「18年誌」の編纂とその配布に注力いただいています。日中韓フォーラム事業は、当面韓国への渡航は困難な状況であり、国際フォーラム事業との連携したプログラムの実施等を考えていただいております。

・昨年度の国際フォーラムで「ピンチはチャンス!」と、色々な試みを行いました。本年度もオンライン形式での事業を中心に、会員の皆様のご支援と知恵を結集したいと考えております。なお、事業については、大隈副会長が中心に理事会が一体となって、「新しい発想、新しい視点、新しい仲間」を目標に取り組んで参る所存です。引き続き、皆さまの温かいご支援をお願い申し上げます。

ICとの出会いから考えること

理事 田口 ヤス子

私が、MRA(現IC)の組織を知ったのは、1968年から中学校教師として、道徳の時間の副読本の中にありました。そこには、欧州が一つになることが世界平和の道とした会議に、フランス人エレヌ・ロー夫人がドイツ人のいる会議には出席しないと部屋に閉じこもってしまったことの話です。真の平和を願うとき、どんな状況でも困難な想いをチェンジして目の前にいる人を否定せずに、受け入れることの難しさと、赦すことの勇気についてのことと解釈し生徒と共に考え、伝えていました。しかし、MRA協会に直接触れたのは

1992年、九州の故井原伸允先生に紹介された講演会入り口で展示されていた道徳の副読本を発見した時です。内容は覚えておりましたが、MRAの日本組織の当時会長でいらした相馬雪香先生と初めて



お会いいたしました。相馬先生とのお話は、季節的に桜と英語教育の話題となり、私の大学では英語

の先生が、東京府知事がワシントンのポトマックの桜を贈呈するときに随行した広報担当であったため「教材は府知事のお人柄からの桜外交のことでした」とお話ししたところ、何と当時の府知事が尾崎行雄氏、相馬雪香先生のご尊父であったということでした。

さらに、戦後の東京都復興財源として都営競馬場を開設されたのも尾崎氏と伺い、必然的な出会いなのではなかろうか、素敵なお偶然的な出会いに驚きました。その競馬場の開設調教師8人の一人が私の父、中央競馬会からのチェンジです。その父の後を継ぐためにロスアンゼルスから20代後半に戻り、チェンジした弟も今年、定年退職し、立ち上げ当時からの流れは新しい風へとチェンジしていくのでしよう。

人も職業も組織も「人」や「こと」などの出会いか

ら成長していくとき、必ずその後の責任を伴うチェンジがあります。その時、自分自身をどのように表現し、進化させていくのか？というヒントに、上下関係なく、世界の平和をめざす先達の方々の真摯な実践とその組織に出会えた喜びがありました。私は、現在「ヒューマン・リテラシー」の研究とその基盤を育て行く研鑽を深めております。しかし、まだまだ未熟な自分に出会うたびに、自らの「心の平和」をフラットに育てることが重要と考え、自分自身を省みております。

また、「共によりよくいきる」実践に無私と利他精神をもって、「情けは人の為ならず」を多方面から解釈し、及ばずながら日々の責務に向き合っております。

皆様に感謝。

新型コロナ雑感 理事 石川 勝一

全世界的に新型コロナ禍一色の様相です。

報道によると、2021年3月12日時点(米ジョンズ・ホプキンス大の集計)で、全世界で約1億1800万人の感染者数で、死者が約260万人とあります。特に米国ではその死者数が、第2次世界大戦・朝鮮戦争・ベトナム戦争の三つの戦争での死者数を超えて、約53万人の死者数とあります。さらには変異株の問題もあり、感染阻止の切り札といわれているワクチンの接種拡大が相当進んでも、集団免疫の形成が出来てその収束に辿り着くまでにはかなりの時間がかかるとみられます。

そしてそのあと、この恐るべき新型コロナウイルスもやがて「新型」ではなくなり、通常風邪ウイルスの一つになっていくといえます。

たとえ時間はかかっても人類の叡智と連携で乗り越えられるものと考えられます。ともあれ、我々人類はこれまで感染症との戦いの歴史ともいわれています。私は歴史が好きですが、人類がこの地球上で文化・文明・科学を発展させてきた歴史にも関心が高いのですが、特にもっともっと古い地球46億年の歴史に強い関心があります。中でもあまり古い時代はともかく、地質学的に古生代カンブリア紀や中生代ジュラ紀に高い関心があります。その理由はここでは触れませんが、ともかく、地球46億年の中で人類の出現は、本当に極々最近のことです。

以前に地球の歴史を一週間に圧縮してみてもという本がありましたが、人類の出現は七日間

の最後の三分前という地球上の生物として新参加者の中の新参加者で、産業革命をはじめたのは最後の0.025秒前とあります。

その極めて僅かの間

に人類は科学技術を発展させると共に、一方では自然環境を破壊し汚染を進行させ、沢山の動植物の種を絶滅させたのも人類であります。46億年のうちには大地殻変動的なことが多数あったのですが、人類が出現してからも、火山噴火、地震、津波、台風、大雨、洪水それに感染症等々地球上では人類にとってもそれこそいろいろな大災厄がありました。しかもそれらは今でも人智では解決できていません。それでも人類は新参加者にもかかわらず地球の覇者の顔をして我物顔で生活しています。しかしながら、この地球上の最強生物として人類が生命を繋いでいける期間は、未来永劫続くとはいえないのです。その意味ではもっと謙虚になって、少なくとも自分達の棲家である地球にとって好ましくないことは決してしないことを一人一人が意識して行動すべきではないかと思うのです。

途方もなく遠い遠い先のことだとは思いますが、それこそ微生物やらウイルス等が地球の制覇者になっていることも考えられるのですから。



思い起こせば IC(MRA)との出会いは、1987年のスイス。その後、故井原先生とのご縁を得て、長年会員として席を置きながらも活動の運営に関わることはありませんでしたが、静岡移住を機に2018年から「学校訪問」に深く関わる機会をいただきました。その時初めて、海外からの参加者選定に始まり、空港で送り出すまでの期間、どれだけの労力を要する業務か改めて知ることとなりました。このような素晴らしい活動に関わった人達だけで享受して良いのだろうか、一部の関係者の知恵に頼るだけで活動継続は出来るのであろうか、との思いが芽生えました。今後受け継いでいく若者達に、この活動の始まりから18年の実績・成果を記録して、協会の財産として形あるものとして今残さなければ、という思いに駆られました。同じ思いであった中山氏を始め、長野氏そして、皆様の賛同が得られ、田口理事と太田氏を加え18年誌編集委員会が発足しました。

中山氏の資料に加え、長野氏が几帳面に保存していた資料を惜しげもなく提供してくださいました。そこには煌めく素晴らしい歴史があり、長年継続してこられたお二人には感謝の言葉しかありません。膨大な資料を如何にまとめるか、過去の経験で、すぐに構想はまとまりました。本編の本文を中山氏、

表紙・裏表紙・写真集のまとめ等々を長野氏にご担当いただき、私は切り張り作業、提供いただいた資料を資料集としてまとめました。最後の大変な編集作業をコンピューターに精通した大胡ご夫妻にお願いし、ご快諾くださっただけでなく、休日返上で何度も編集作業に従事いただき、皆の力を結集して、どうにか完成に漕ぎ付けることが出来たこと、心より感謝申し上げます。

また、学校訪問には、目に見えない多数の協力者が存在する事も忘れてはいけません。紙面には書ききれない、空港の送り迎え、車での送迎、ホームステイ、宗教により異なる食事の準備に接待など、多くの方のご協力が欠かせません。ICの事業の中でも、関東から九州まで、会員、非会員を含めこれだけの方々が関わる点でも唯一無二の素晴らしい活動だと思います。

この18年誌が、「学校訪問」活動にこれまで関わって下さったすべての方への感謝の証となり、今後も活動が長く続く事を期待して、引き継いでくださる次世代の手引書となれば幸いです。編集委員の皆様と共に18年の歴史を旅する編集に携われたことに深く感謝致します。

私と国際 IC

私は、定年後ボランティア活動をしながら井原伸允先生の一公塾で、MRAの道義標準と交流分析、集団力学研究など多様なテーマについて多くのご指導を頂きました。

その中で日本ミニ HOHOでの先生ご自身のライフレビューで、いろいろな仕組みを考えながらそこに適材適所 人を繋げて実践して実現していく力に感動しました。また、福岡で開催された ICセミナーでの、静かな時間の持ち方、矢野会長の講演にも感動しました。

私は、学んだことを社会貢献として実践するために Initiatives of Change、これまでの自分を再構築し新たな生き方を目指していくことにしたのです。

福岡 IC サークルでの体験

二宮尊徳の推譲金の考え方を福岡 ICサークルの活動資金の運用に適用しようとしたことは上手くまとめられずに終わりましたが個人的には 500円玉貯金と推譲金は続けています。

自利、利他の考え方は、企業の社会的責任 CSR、NGO、NPO でのボランティア活動に繋がることを体験しました。

国際 IC 学校訪問での体験

受講学生は、訪問メンバーよりプレゼンされた異文

化への興味、人種差別などの課題、青年たちの家族関係や生き方を通して、自国文化や自分自身のありように気付きと理解を示すことは、私も実感しましたが終了後のレポートにもしっかりと書かれています。

こうした学生の気づきがモチベーションに繋が

り、国際理解が深まることと思います。私は、受講学生の側からも異文化交流の意味を込めて謝意を表すコメント、歌をおわりに実施して頂きました。太宰府の小学校では、花笠を持った4年生全員で音楽にあわせ「花笠音頭」を踊り、訪問メンバーが驚きよい交流が出来たと思っています。

終わりに

井原先生がライフレビューで奥さまから「人のため、労をいとわず誠心誠意尽くす人」ですと言われたと拝聴しました。私も残された人生、井原先生のように出来ませんが健康であれば、少しでも社会貢献して生きたいと願っています。

